る.る.ぶ²

食べ**る**、寝**る**、遊**ぶ**、学**ぶ**

大殿小学校　校長室だより
平成30年度　第１０号（6月29日）
校長　　磯　村　　勇

教科書を読もう

学校の教職員の間でのみ使われる言葉、いわゆる業界用語の１つに「授業研究」という言葉があります。「授業研究」というのは、教員の誰かが代表して授業を行って、複数の仲間がそれを参観する。参観する者は、授業の様子を記録・分析して研究する。（メンバーが集まって話し合うことが多い）そうして、自分が授業を行うときの参考にする。・・・・というものです。

この「授業研究」は、教員が授業の腕を磨く方法として非常に優れた取組であると、世界的にも評価が高く、多くの国で取り入れられているシステムなのだそうです。

さて、６月２６日（火）には、その授業研究の話題提供を、校長が行いました。４年３組の子どもたちと、国語「一つの花」の勉強です。「一つの花」のあらすじは、次のとおりです。

時は戦時中。食糧難の中、幼いゆみ子はいつもお腹をすかしており、食べ物を母親にせがみます。母親は、わが子にお腹いっぱい食べさせてあげられない悲しさを隠し、「一つだけよ‥」と言い聞かせながらゆみ子に食べ物を与えます。おかけで、ゆみ子が覚えた最初の言葉は「一つだけ」でした。やがて、父親は出征。その出発の日、お腹をすかせて「一つだけ」とぐずり始めたゆみ子のために、父親は一輪のコスモスをゆみ子に与え、何も言わずに汽車に乗って戦争へと行ってしまいました。そして10年後、咲き乱れているコスモスのトンネルから駆け出してくるゆみ子の姿がありました。

・・・「わが子を思う親の気持ちと戦争」を題材にした、なかなかに重いテーマの物語ですが、４年３組の子どもたちは、実に素直に、誠実に物語と向き合いました。小学校４年生が、わが子を思う親の気持ちが分かるのかと思われるかもしれませんが、子どもたちは十分に親の気持ちを想像することができるのですね。

ところで、この「一つの花」という物語は、ずいぶん長いこと教科書に掲載され続けています。親子２代にわたって同じ物語を学ぶケースもあると思います。そこで提案ですが、お子様から国語の教科書を借りて、もう一度お話を読んでみませんか。市立・県立の図書館でも簡単に読むことができます。算数・社会・理科などは、数十年間変化がない教科書はありませんが、国語の物語だけは数十年間変わっていない作品があります。

お子様の学習を知るために、ご自分の復習のために、子どものころに読んだ感想と今の感想を比べるためにも、教科書に手を出してみてください。参考までに、本校の子どもたちが使っている教科書で長い間掲載され続けている作品を並べておきます。

１年生→「おおきなかぶ」「くじらぐも」「たぬきの糸車」、２年生→「スイミー」「お手紙」「スーホの白い馬」、３年生→「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」、４年生→「一つの花」「ごんぎつね」、５年生→「大造じいさんとガン」、６年生→「やまなし」

できれば、声に出して読んでみてください。大人になり子育てをする頃に、教科書をまじめに音読すると、読んだ本人もびっくりの反応が起こる場合があるそうですよ。

引き渡し訓練お世話になりました。

６月２７日（水）に実施した訓練では、生憎の雨にもかかわらず、多くの方にご協力いただき、誠にありがとうございました。訓練の成果を発揮するような事態が起こってはならないからこそ、緊張感を保った訓練を行うことが大切です。その意味でも、十分に目的を達成することができました。